



板室本村の一里塚



笹野曾里東の一里塚



会津中街道



横林の一里塚

私のまちの  
**近い**  
世界遺産

行けばわかるさ  
～一里塚 昔の旅のキロポスト～

▶ 問い合わせ  
函生涯学習課  
☎0287(37)5419

平成8年に文化庁が認定した「歴史の道100選」に、昨年10月、会津中街道が追加選定されました。市内をはしる会津中街道には今も多くの一里塚が残されています。

Topic

湯治で完治！？

板室本村の湯本道標は、会津中街道板室宿から板室温泉への道しるべとして天保7(1836)年に建立されました。伝承によると、湯治に訪れた足の不自由な人がこの温泉で完治したことに感激し、同じ病に苦しむ人々のために建てたとされています。

今より医療が発達していなかった時代、元気に歩けるようになった喜びは今より大きかったのかもしれない。



板室本村の湯本道標

一里塚とは、旅行者の目印として大きな道路のそばに1里(約3.9km)毎に設置した塚(土盛り)のことです。本来は街道の両側に設置されるものですが、開発などのため、道の片側のみとなってしまっているものも少なくありません。市内では7カ所の一里塚が文化財に指定されており、今回追加認定された会津中街道にはそのうち5カ所の一里塚があります。

会津中街道は、奥州道中氏家宿と会津若松城下を結ぶ街道です。下野の今市宿から若松城下に至る会津西街道が先に存在していましたが、天和3(1683)年の日光大地震で五十里湖が出現し、会津西街道をふさいでしまったため、代わりとなる道として元禄8(1695)年に整備されました。板室や三斗小屋を通る険しい山越えの道で、一里塚は、氏家宿から会津若松に向かう順に、下大貫の一里塚(一対)、横林の一里塚(二対)、笹野曾里西の一里塚・笹野曾里東の一里塚、板室本村の一里塚があります。